

税理士に限らず、ほとんどの日本人は子供の頃から「決まりは守りなさい！」と教えられ、法律に従わないということに対して強い抵抗を示す傾向があると思っっているからです。

そもそも法律というのは、社会秩序を維持するために存在するものなのですが、現実的には、皆がちゃんと法律を守るのを、法を犯すことによってペナルティを受けることを回避したいと思っから守っているに過ぎないと思っています。もしもその法律が合理的に納得のいくものであるならば、「ペナルティ云々はさておいてもちゃんと法律を守ろう」という思考に至ることは理解できるのですが、今回の定額減税のような筋の悪い法律が施行されてしまった場合、私のようなヒネクレ者はついに、「こんな法律なくなってしまえばいいのに」なんてことを考えてしまうのです。

「悪法もまた法なり」という言葉があ

るように、実は悪法との向き合い方についての議論は昔から行なわれており、未だに結論らしい結論の出ない深淵なテーマなのです。かの有名な哲学者ソクラテスの場合には、「納得のいかない法律だからといって従わない訳にはいかない！」とソクラテス自身に下された不当な死刑判決をも受け入れ、「法律に納得がいかないのであれば、『法は政治の場で改善されるべき』と主張しました。

それは実に真つ当でゴモットモなご意見なのですが、その政治が決めた定額減税を今すぐ廃止することを決定する政治が今の日本の国会で行なわれないことは明々白々です。だからこそ、ただ「決まったことだから」と思考停止状態で法律に従うのではなく、自分の頭でその悪法とどのようにして向き合い、そしていかにして変えていくべきなのかを学会のような場で議論していくことが肝要なのだと思うのです。

そりゃ誰だって「できれば平和に過ごしたい」と思うから、決まったことを蒸し返して意見の違う人と議論をするなんて「時間の無駄」と思う気持ちにはよく理解できます。もちろん、私だって。だからモヤモヤを抱えながらも悪法に向き合うつもりです。胸の内を相田みつをの言葉を噛みしめながら。「かんがえてばかりいると日がぐれちゃうよ」



Akira Saito

神奈川県生まれ。1980年生まれ。神奈川県出身。平成15年税理士試験合格。昭和三十九年（1964年）東京支店長。支店長・日本税理士会経営部部長。研究会監事。人研水会監事。「波乗り税理士」http://blog.livedoor.jp/saiki555/

【近況】いつも犬の散歩で行く家の近所の川で鮎が釣れることを知りました。昨日も2時間ほどでたくさんの鮎が釣れたので、から揚げにして美味しくいただきました。